

第191回 令和8年3月10日(火)

「無駄に終わることの大切さ。」

私は週末に本屋に行くことが趣味です。というよりも本屋に行かないと損をしたような気分になって落ち着きません。もしかしたらよい本が発売されているかもしれないと思うと、いてもたってもいられません。

実際は空振りがほとんどです。本屋さんも1週間でそれほど品ぞろえを変えないですし、いつも面白そうだなと思う本に巡り合うこともありません。それでもせっかく来たのだからと無理して何冊か買うと「はずれ」を引いてしまうこともあります。

自己啓発本もよく買うのですが「あたり」は30%あるかないかです。当たった時は視野が開けるような気がします。得てして自分の経験を書き連ねている本は良くないですね。あなたの経験談が万人にあてはまるわけではないでしょうと思います。

知らない作家さんで「あたり」を引くと巻末の広告を見て次の作品を買いあさります。反対にはずれた作家さんは「もう二度と買わない」と思います。シリーズものにはまると最後まで読破しないと気がすみません。

どこへ行くにも本は持っていきます。財布と携帯と本があればだいたいコンプリートです。読み終わるまであと少しの時は読む本がなくなると不安なので数冊持っていきます。5分でも時間があれば読書をします。

どこかへ出かけるときには本屋のある場所を選びます。いまは紀伊國屋書店とくまざわ書店と未来屋書店が多いので、どこに行っても品ぞろえが変わらないのが残念ですが、売り方は書店によって工夫しているのがわかります。書店員のおすすめには惹かれるものがあります。

本屋巡りは無駄が多いです。ネットなら好きな本が優先的に表示されますし、検索もすぐできます。でも無駄があるからこそ「あたり」を引いた時の喜びが大きくなります。エコーチェンバーが影響していない状態で、自分が手に取るはずのない本を買って面白かったとき、出会いに感謝します。

平日5日間がんばったから休日がうれしいとか、応援しているプロ野球チームがなかなか勝てないから勝てたとき喜びが倍増するとか、そういったことが最高の調味料になることがあります。

これからも本屋さんに通い続けます。本屋さんがつぶれると人生がつまらなくなるので、「はずれ」を引いても「本屋さんが助かるなら良い」と考えています。